

あっ Aしおかせ

男女共同参画



それぞれの 視点 支点

それぞれの

【視点】

視線の注がれるところ。
物事を見たり考えたりする
立場。観点。

【支点】

てこや天秤などの支えとな
る、固定した点。



グループ紹介

第22回

正調 焼津節伝承会

へ気前荒波 焼津の浜に いつも大漁の鰯船

これは「焼津節」の一節。この唄を保存し、「焼津の若者に受け取ってもらいたい」と活動しているのが、今回紹介する「正調 焼津節伝承会」です。

男性6名、女性8名。昭和30年代、焼津が活気ある時代から各方面で活躍してきた人たちが集まったスーパージョウブです。

昨年、津軽三味線の若手演奏者、浅野祥さんに焼津節のアレンジと演奏を依頼。すると、メンバーの知り合いにも焼津育ちで三味線を演奏する若者、横江誠人さんがいると分かり、会は一気に盛り上がります。また、メンバーの中には元芸者さんもあり、横江さんへ三味線の手ほどきをするなど、皆さんそれぞれの経験を活かし、一生懸命活動に励んでいます。

今年4月、焼津港まつりで横江さんが焼津節を披露。会場からは「懐かしい」などの声も聞かれました。今後、地元若者への伝承や、さまざまな楽器でのアレンジへと、ますます意欲を見せています。

会の代表を務める清水和子さんは、焼津の老舗ホテル汀家(旧焼津ホテル)の会長でもあります。「昭和30年に嫁いだ時、家の中には古い物がたくさんあり、義母からは物を受け継ぐ大切さを教わりました。また、義父は焼津踊りの普及に力を尽くし、形のないものを後世に残すことに力を注いだ人でした。そうした精神を私も受け継いでいるのかもしれない」と清水さん。昔に思いをはせながら、常に時代の先々を考えて活動しています。

会合では、昔ながらの浜言葉が飛び交い、時に荒々しく響くこともあるとか。しかし、焼津の歴史を知り、その賑わいを肌で感じてきた者同士、この唄の伝承にかける思いは皆同じです。

焼津節とともに、「正調 焼津節伝承会」のこの心意気も私たちが受け継いでいきたいと感じました。



清水和子さん



「焼津節」について

焼津節は昭和初期に誕生した焼津の郷土民謡です。当時の焼津の風景が歌われ、独特の節回しが特徴です。歌詞は市民から公募し、詩人・北原白秋が選定を行いました。